

資料5-3 別紙) 詳細調査候補地選定の経過

区分	場所	被度の変遷 ²⁾			群集タイプ ⁹⁾	シルトの影響 ³⁾	利用者の認識 ⁴⁾	幼生定着数		稚サンゴ密度 ⁷⁾	選定結果 ¹¹⁾	名称	位置		水深(m)	コメント
		1980年	1991年	2002年				定着板 ⁵⁾	着床具 ⁶⁾				緯度	経度		
保護海域候補地 ¹⁾	アーサーピー礁 湖南部				コビエダハマサンゴ							保存区St.1	24° 17.827	124° 09.153	3	コビエダハマサンゴ群集が広範に分布
	アーサーピー礁 湖中部				枝状ミドリイシ							A	24° 18.397	124° 08.126	7	シルトの影響を受ける
	アーサーピー礁 湖				枝状コモンサンゴ・枝状ミドリイシ							B	24° 17.552	124° 07.658	3	シルトの影響を受ける
	竹富島南方	卓状大型	×	卓状大型	卓状ミドリイシ		(ダイビング)					C	24° 17.215	124° 05.132	1-6	より大規模な卓状群集のある竹富島西方の地点で代表させる。
	竹富島西方	卓状大型	未調査	卓状特大型	卓状ミドリイシ							保存区St.2	24° 18.630	124° 04.328	2	卓状サンゴが特に大きい。潮通しがよく白化に耐えている。
	ウラビン礁原				多種ミドリイシ		(漁業)					保存区St.3	24° 16.052	124° 01.891	2	自然復元力が大きい
	竹富島シモビシ				枝状コモンサンゴ・枝状ミドリイシ						海中公園地区	D	24° 18.153	124° 01.799	2	既に海中公園地区として保護を受けている
	小浜島南部				枝状ミドリイシ							保存区St.4	24° 18.498	124° 00.355	5	高被度域の面積が広い
	新城島マイビシ		×	卓状大型	卓状ミドリイシ						海中公園地区	E	24° 14.509	123° 55.809	1-2	既に海中公園地区として保護を受けている
	新城島南部			卓状大型等	多種ミドリイシ							保存区St.5	24° 13.205	123° 54.779	4	多種ミドリイシが高被度で分布。
修復事業候補海域 ⁸⁾	アーサーピー礁 湖西端		×		ハマサンゴ							再生区St.1	24° 17.602	124° 08.782	4	水質等の環境良好であるが、加入は少ない。
	竹富南航路南側			×	枝状ミドリイシ							再生区St.2	24° 18.664	124° 06.203	4	浮泥堆積多い(現地調査時)
	小浜島東方			×	枝状ミドリイシ							F	24° 20.494	124° 02.649	6	シルトの影響を受ける
	嘉弥真島南部			×	枝状ミドリイシ							G	24° 21.496	124° 02.650	2	夏季高水温、冬季低水温
	小浜島北部			×	ハマサンゴ				() ¹⁰⁾			再生区St.6	24° 21.700	123° 58.669	4	水深浅く作業困難
	小浜島細崎南部		×	×	コモンサンゴ							H			2	シルトの影響を受ける
	ウラビン礁湖			×	枝状ミドリイシ		(漁業)					再生区St.3	24° 16.120	124° 01.698	3-4	加入潜在力は高い?
	黒島東礁池		×		枝状ミドリイシ							再生区St.4	24° 14.186	124° 02.020	5	潜在的枝状ミドリイシ高被度域、オニヒトデ大発生後未回復
	黒島西沈水離礁		×		枝状ミドリイシ		(ダイビング)					再生区St.5	24° 15.621	123° 59.441	10	加入多いが、低被度。うねりによる砂の巻き上げあり。

1) 2002年調査におけるサンゴ高被度域(50%以上)または卓状ミドリイシ大型群体分布域を選定。

高被度域は概ね面積が1km²以上の分布域を選定した。卓状ミドリイシは小面積でも大型群体分布域を選定。

2) 被度 × :粗被度(5%未満)、 :低被度(5-25%)、 :中被度(25-50%)、 :高被度(50%-)、1980年は環境庁サンゴ分布図から推定

3) :シルト分布地点から2km以内、 :シルト分布地点から2km以遠、環境省広域モニタリング及び自然再生調査(2002)結果

4) :あまり利用されていない、 :利用されている、 :よく利用されている、自然再生調査委員会資料(2003)

5) :1-5、 :5-10、 :10- /100cm²定着、野島助教授2004年調査結果

6) :-1、 :1-2、 :2- /1着床具 定着、自然再生調査(2004)結果

7) :1-5、 :5-10、 :10- /m²、自然再生調査(2004)結果

8) 2002年調査におけるサンゴ低被度(25%未満)分布域で、主として面積の大きいものを選定。

9) 修復事業候補地の現状は低被度であるため、1980年頃の群集タイプを示した。

10) 船進入不可のためカヤマ水路に設置した。

11) :良、 :適、 :不適